

第4回南陽市自分ごと化会議 議事録

1 開会

2 一般社団法人構想日本 代表理事 挨拶

3 全体協議（石井コーディネーター）前半

今週、私が普段生活している逗子市はすごく暑くて半袖で生活していたが、こちらに来て夏から急に冬に変わったような感じがして季節が進んでいることを感じる。近年は秋がなくなって夏のクーラーの時期が終わるとすぐ暖房をつけ始めるような気がする。今日は暑かったころを思い出しながら議論していただきたいと思う。

この会議は7月から始まり、8月9日と皆さんから意見をいただきながら進んできて、前回はナビゲーターとして実際に小中学校の統廃合を経験されている方に来ていただいてお話ししていただいた。2回目と3回目で皆さんに書いていただいた改善提案シートと、発言していただいた内容をまとめた案が皆さんにお送りした提案のとおりまとめである。今回はこの資料に対しての意見をいただき、最終的にここでの意見を反映させたのち、みなさんにもう一度見ていただいて最終的には11月23日に市長に提出するという流れになっている。この会議は何かを決める会議ではないため、絶対にこうだという最終的な提案を出すわけではない。場合によっては意見同士が矛盾してしまうかもしれないが、皆さん一人一人の意見をできる限り反映させて一つの資料にまとめて市に提出しようと思っている。この会議の代表者や座長などを決めていないので23日は来られる方にお越しいただいて、皆さんから市長にお渡ししていただくセレモニーと、少しお話をさせていただく場にしたいと思っている。手元にある意見提出シート(提案書に対する意見を書く資料)に、23日の出欠確認も記載しているのでぜひ立ち会っていただければと思う。今日は一つのたたき台をもとに議論をしていきたいと考えている。表紙に5つの提案と記載しているが、提案自体は皆さんからもっとたくさんいただいている。しかしそのまま羅列しても読みづらいため、木の幹のような提案を5つたててその中にまとめているという状態。例えば、自分の意見が2番に記載されているが、3番に記載してほしいというような意見があればそれもおっしゃっていただきたい。これは皆さんから市、市長に対する提案ということになるので、表紙の下部には南陽市自分ごと化会議委員一同と記載し作成している。

「はじめに」のところは、この会議のことを知らない方が読んでもわかるように、これまでの経緯をざっとまとめている。2段落目では、「中学生のしたいことをかなえてあげたい」ということや「できる限りこのまちで長く過ごしてほしい」ということをまとめたが、したいことをするためには県外や国外に出ていく可能性もあるということも含めて表現している。「私たち」というのは、委員一同という意味合いで使っているが、学校の環境をつくるのは基本的には教育委員会や市役所である。しかしそれらを役所任せにするのではなく、市民一人一人が関わっていきこうという気持ちも含めて、全体として私たちはこういう風になってほしいというよりは、こういう風にしたいというトーンで書いている。「学校を作る」のように表現が強い部分もあるかもしれないので、そのあたりも含めて皆さんからご意見をいただきたい。

次の段落では、これまで皆さんと一緒に現状を見てきた、市内の生徒数が減少しているということ、それに伴ってどんな状況が生まれるのかということに記載し、学校施設がかなり古くなっているという話も整理している。

後半には、学校でも皆さんの生活実感の中でも重要視されている、中学校と地域との交流についてまと

めている。

最後のところでは、南陽市では 10 代の高校生、大学生をはじめとする若い世代の方に特にたくさんご参加いただいたのでまとめて記載している。「はじめに」には長すぎると思われるため、また整理するが、全体としてはこんな風に考えている。意見があれば意見提出シートに記入していただければと思う。次のページには、氏名の記載にご了承いただいた方については氏名を書かせていただいて、皆さんからの提案だということをより強調した作りにしたいと思っている。

次に 7 ページを見ていただきたい。みなさんからいただいた様々な意見を 5 つの大きな幹に分類した。それぞれの順番についても意見をいただきたい。1 つ目の提案は、私がこれまでの 3 回の皆さんのお話を聞いている中で、地域を大事にしたいという意見を皆さんから多くいただいたので一番最初に配置している。地域のことを中学生に知ってもらいたい、一緒に勉強したいという意見があったり、地域にあるものをもっと学校の中にも生かしてほしい、また逆に学校で学んでいることを中学生から地域に還元してもらえないかという意見もあった。これらをまとめた表現を 1 つ目の提案にしている。2 つ目の提案は、学校にはカウンセラーや相談に乗ってくれる人も配置されているが、もっと配慮が必要なのではないかという意見があったことから「一人一人を大切にす」学習環境をより進める必要があるという表現をしている。また、実際の会議の場ではなく、改善提案シートに書いていただいた、性的マイノリティの生徒に対する配慮であったり、男女の制服がはっきり分かれていることなどについての提案をまとめて記載している。3 つ目の「多様な体験の機会」は、主に部活の話題で議論が盛り上がった部分になるが、中学生は小学生の頃に比べるとやりたいことや関心が広がっていく中で、一人一人のやりたいことを諦めずに南陽市の中学校でも保障される教育環境を目指すということを表示している。主にこの提案は施設のことでなく、運営の方法やソフトのことに関連した提案を中心にまとめている。4 つ目の「よりよい学びの環境」というのはあまりに抽象的で中身がわかりにくい、施設の提案を主にまとめている。今ではエアコンがない学校はなかなか考えにくくなってきているように、皆さんが施設に求める水準はどんどん上がってきている。そうした状況において、よりよい施設を保障してあげたい、用意してあげたいという内容である。5 つ目は前回提案があった部分で、学校だけではなく自習する場なども含めて、放課後や休みの日に安心して過ごせる場がほしいという意見があったため、それらを中心に記載している。

今日は、これから残り 2 時間少々の中でこれらの幹ごとに皆さんに見ていただきながら意見をいただきたいと思う。まずは 2 ページの 1 つ目の提案の中で意見はあるだろうか。また、9 ページのその他の主体のところ「南陽市内の企業や施設が中学校に協力する」と意見を出していた方がいたため、こちらに記入したが、ただ単に協力するというだけでは何のことかわからない。協力してどんなことをするのかを提案書に記載したいと考えているが、改善提案シートにはそこまで記載がなかったため、もしも今日この提案を書いた方がいれば、企業にはこんなことを期待したいということをしめて意見をいただきたい。この提案を書いた方でなくても提案があれば受け付けたい。前回は、5 番目の提案の中で企業が中学生のための場所を提供してもらえるのではないかと話をしていただいたが、もし 1 番の提案の中でも考えられるアイデアがあれば教えていただきたい。

(委員自由発言)

「その他の主体」の 4 番目で、南陽市内の企業や施設が中学校に協力して製品や物であれば本物に触れる機会を作る、製造の過程を学ぶことができるといいかと思った。

(石井コーディネーター)

本物に触れる機会を企業に提供してもらおうという意見が出たが、そうした経験をされた方はいらっしゃるだろうか。できあがったものを食べるだけ、見るだけではなく、地元でどのように作られているのかを学ぶことができるようなイメージかと思う。

(委員自由発言)

市内に靴などを製造する革製品の会社があり、小学生の頃に見学に行ったことがある。その時は、いろいろな革の種類を見たり、加工する技術なども学ぶことができた。最後にはお土産のキーホルダーももらうことができた。地元の職業について知ることができるいい機会だと思った。

(石井コーディネーター)

小学生の頃に地元の産業を知る経験をしたということ。

(委員自由発言)

自分が通っている高校とは違う学校で、文化祭の時に企業と協力しクラスごとに出し物をしているという話を聞いたことがある。同じように、市内の企業が、中学生が考えたイベントに協力するようなイベントがあるといいのではと思った。

(石井コーディネーター)

その高校での催しはどんな内容だったのだろうか。

(同上委員)

お菓子などの食品を企業の協力のもと出品すると聞いた。

(石井コーディネーター)

単純に中学生や高校生が消費者となるのではなく、製造とは言わないまでも企業と関わっていく経験ができる場があればいいということ。

(委員自由発言)

私はそうしたことに協力する側だが、お願いされればなんでも協力する気持ちはある。荻小学校でタイムカプセルを掘り起こす機会があり、重機を無料で貸し出した。そうしたことはお願いされれば常に前向きに協力しているが、他のサービス業や製造業では難しい側面もあると思う。業種によって協力の仕方は様々かと思うので、～に協力するという前提で提案するよりは、そのまま協力してもらおうというニュアンスの方がいいか考える。

(石井コーディネーター)

提案書で限定してしまうよりは、どういう風に協力するかというイメージだけ、(例えば～する)という書き方で記しておく程度にした方が、いろんな広がりがあると考えられる。

(同上委員)

私自身も他の団体などで企業の代表等とつながりがあるので、学校からお願いされたら協力しようという意識を持てるように促していきたいと思う。

(委員自由発言)

提案の順番について。5 の提案を 1 と 2 の間に持ってくるのはどうだろうか。5 の最後に記載のある「当事者の声を聞くという言葉にハッとさせられました」という意見が上手く 2 の提案に繋がるかと思った。

(石井コーディネーター)

提案の 5 までざっと中身を見てもう一度この議論をしたい。

(委員自由発言)

各提案が記載されている上部にある、□で囲まれた部分について(8 ページ)について。下から 2 行目の「未永く地域に残ったり」という部分がただ単純に残っているだけという印象を受けるので「未永くこの地域において活動し、産業や文化を継承し、発展させることに繋がります。たとえ市外に出ていったとしても、離れた場所から郷土を思い、応援できること」という風にしてはどうかと考えた。ただ漠然とこの地域に残っているわけではなく毎日活動しているので、こうした文言を入れたいと思った。

(石井コーディネーター)

現状の記載だと少し消極的なニュアンスが出てしまっているので指摘いただいた通りだと思う。活字で示されるともっともらしく思えることもあるが、まだまだこれはたたき台の段階なので皆さんから意見をいただいてよりよいものにしていきたいと考えている。続いて 10 ページに移り、2 つ目の提案について意見をいただきたい。ここについては前回、悩みを抱えている中学生は多いのではないかという意見があり、それらをまとめた部分である。すでに実施されていた取り組みでもあったが、大学生や高校生が中学生に協力できることもあるのではないかという意見もいただいた。

(委員自由発言)

多様性を認め合う環境づくりというところで、ジェンダーについて詳しく知ることができる講話などを実施し、理解が深まれば一人ひとりを大切にできるのではないかと思う。

(石井コーディネーター)

その点については誰が取り組むことになるだろうか。行政が取り組む項目に追加したいと思う。

(委員自由発言)

提案 1 のその他の主体の①の内容は提案 2 にあった方がいいかと思われる。

(石井コーディネーター)

高校生が中学校を訪問するという項目を提案 2 に入れるということ。地域というよりは個々人が思っていることを高校生から中学生に対してコミュニケーションをとるといようなイメージだろうか。

(同上委員)

さらに、提案上部の口の部分に記載されている「年齢の近さから」ということも踏まえると提案2に入れる方がいいかと思う。

(委員自由発言)

私と同じ学校でジェンダー差別をなくそうというテーマで活動しているグループがあり、その中で米沢市の中学校に授業をしに行くというものがある。グループのメンバーは事前に専門の方から話を聞き、生徒が体験をしながらゲーム感覚で学ぶことができる授業を展開している。ジェンダーを理解するということの具体例としては、自分だったらどう思うかということや無意識のうちに偏見を持っているということを理解することが挙げられると考える。高校で学んだことを中学校に行き行って教えるときに、自分の高校の活動の紹介などもあわせて行うことでより幅広い展開の可能性が見えてくると思う。

(石井コーディネーター)

米沢市の中学校、高校で行っていることを南陽市でもできるのではないかという意見だった。

(委員自由発言)

提案の5とも関わるかと思うが、不登校や悩みを抱える生徒というのは、長期休みの時に表面化してしまうことが多いのではないかと思う。中学生のころは、電子機器(スマホやパソコンなど)を持っている人とそうでない人でバラバラだと思われるが、それらの所持率が比較的高い高校生は長期休みの間も友達同士で連絡を取り合ったりして不安が解消されるのではないかと思う。中学生が関わる相手は、同じ部活の友達などに限定されたり、登校日などに友達に会って話すだけにとどまる可能性もあるはず。長期休みの間もみんなで集まることができる場があったり、連絡が取れるツールがあれば悩みを抱える生徒が少なくなり、長期休み明けに学校に行くのが辛いと感じる気持ちも軽減されるのではないだろうか。

(石井コーディネーター)

それは地域か行政かもしくはその他の主体であるか誰の役割になるだろうか。

(同上委員)

地域かと考える。

(石井コーディネーター)

最初の課題の立て方が、中学生というより中学校というところから入っているので、学校の中身をどうするかという意見が多かったが、学校に行けていない、学校に行かないという判断をした生徒のことが反映できていない部分があった。もしもこれらに関連する意見があればこの場でおっしゃっていただきたい。

(委員自由発言)

第三の居場所を作るという言葉が最近よく聞くようになった。自分が勤務している職場でも、山形市にある遊技場の中に誰でも参加ができる第三の居場所を作る活動をしている。南陽市にもそんな場所がある

のかと疑問に感じ調べたところ、市内で 2 か所見つけることができました。これらの場所では、不登校や生きづらさを感じる生徒、長期休みに居場所がない子どもが気軽に通うことができるスペースとなっている。こうしたスペースを行政が中心となって用意してもいいのではないかと感じた。宮内にあるスペースでは、地域の方が主体となって施設を開放し、子ども食堂なども展開している。自分の知り合いの中にも利用している保護者の方がいらした。中学生など、少し年齢の大きい子どもの居場所があまりないような気がしたので、これから考えていきたいと思った。

(石井コーディネーター)

2 番と 5 番の両方に入れることになりそうか。

(同上委員)

2 番の「不登校や悩みを抱える生徒の声を聞く」というところと、5 番の「公共施設を積極的に使う」というところと重なってくるかと思う。

(石井コーディネーター)

5 番にだけ入れてもいいような気はするが、2 番に関連して記載する方が一人ひとりを大事にする結果として学校以外にもサポートできる場があってもいいという気持ちが読めるので両方に入れるのもいいかもしれない。

(委員自由発言)

1 人 1 台ずつ端末を配布しているので、その中に生徒同士がコミュニケーションをとることができるものを内蔵しておけばいいのではないかと思った。面と向かっては言いにくいですが誰かに相談したいことなどがあるときに活用できるのではないか。

(委員自由発言)

行政の③において、「男女の体操服を統一したり、制服を選択制にしたりする」という記述があるが、男女の体操服は最近では統一されていることが多いと思う。どちらかという学年ごとに靴の色が決められていたり、体操服に刺繍されている名前の色が違ったりすることを変えてほしいと思う。

(石井コーディネーター)

男女の体操服を統一してほしいという意見は改善提案シートに記入していただいていた内容だった。今は学校で統一されている(学校教育課長に確認)。短パンの長さが男女で違うということも書かれていた。今も状況は変わっていないのだろうか。

(委員自由発言)

自分は 3 年前に中学校を卒業したが宮内中学校では女子の短パンが短かった。理由としては、スカートの下に履いた時に裾から見えないようにするための工夫だと聞いたことがある。しかし、長ければ折ればいだけであり、規定で短くされるのは嫌だという意見もあった。

(石井コーディネーター)

これは事実の話なので後ほど事務局から確認してもらうこととする。事実であれば提案として残すことにしたい。体操服の名前の刺繍の色について何か聞いたことはあるだろうか。

※後日確認したところ、現在は各サイズの中で長いもの、短いものがあり、自由に選択できるようになっている。

(同上委員)

私の高校は全学年で靴の色もすべて統一されている。

(委員自由発言)

南陽高校は学年ごとに色が決められている。

(石井コーディネーター)

学校によってさまざまかと思う。学年ごとに色が決められていることについてあまり違和感はないのだろうか。

(委員自由発言)

自分は気にならなかったが気になる人もいるのかもしれない。

(委員自由発言)

障がいや性教育などをはじめとして、身近な違いを理解するための授業をしてもいいと思う。

(石井コーディネーター)

これも同じように学校で行政が担うということになるだろうか。続いて 11 ページ以降について考えていきたい。提案 3 では部活だったり学校だったり皆さんから具体的な意見をいただいたところとなっている。前回のナビゲーターの話の中でも、ある程度人数がいた方がスポーツに限らず吹奏楽や合唱などの学校行事においても多様な体験ができるということだった。この章は、南陽市の中学生全員に多様な体験の機会を保障していくためには統合するのも必要なのではないか、という少し統合に踏み込んだトーンで整理をしている。行政だけではなく地域やスポーツ団体など、いろんな主体の協力が必要になると考えられるこの章において、追記できそうなことやこの書き方はどうだろうかという意見などをいただきたい。

(委員から意見なし)

それでは、関連する提案 4 に移りたい。まずタイトルの「よりよい学びの環境」というのはすごく抽象的なので修正する必要があると考えている。ここでは建物や施設、設備の話を中心に整理している。施設の話だと 1 回目に出たトイレのことやエアコンは必須だという意見など。勉強のためには今よりもいい環境で過ごさせてあげたいものの建物自体は古くなっているの、財政的に考えると統合を避けられないというトーンで整理している。

(委員自由発言)

11 ページの提案 3 について、口の中の文章の修正案を考えた。2 行目を「互いの人間関係が深まったり、

一人ひとりにきめ細やかな対応が可能な反面、多様な考えに触れたり多様な体験をしたりする機会が減ってしまうことを示しています。そして幅広い人間関係や社会性が育ちにくいことが懸念されます。老朽化した校舎の多額の維持管理費も増え、これらを解消するため学校の配置(統廃合も含めて)検討が必要になってきます。しかし、将来のことだけではなく、現に上記の懸念事項や部活動の地域移行などの懸念事項や懸案事項があり、今、私たち市民や民間事業者等が多方面にわたり積極的に関わり協力することで中学生に多様な体験の機会を提供できる教育環境を整えるということが重要です。」としてはどうかと思う。意見提出シートにも記載している。

(石井コーディネーター)

4 との整理の中で重複しないようにうまく分けて修正したいと思う。提案 3 と提案 4 においては、統廃合も含めた中学生の活動の部分と、施設の部分に分けて整理している。全体のトーンとしては一定の環境や経験のためには統合は避けられないという書き方でまとめている。

(委員自由発言)

地域エゴを捨ててオール南陽で議論するというのはいかがか。

(石井コーディネーター)

エゴという表現は若干強いかもしれないが、そうしたことは地域で実感することがあるだろうか。

(同上委員)

赤湯で運動会をしたらしいがうちはどうするか、のように対抗意識をもって他の地域と見比べていることはある。

(石井コーディネーター)

それは皆さんに割と幅広くあるのか、それとも世代だろうか。

(同上委員)

世代もあると思う。学校の統合などもあり少しずつ薄まってきているとは思いますが、お年寄りの中からはなかなか消えないだろう。

(石井コーディネーター)

こうした地域間の対抗意識や、うちの地域が一番だという意識などがあるかどうかについては他の皆さんはいかがだろうか。若い方にもあるのか、南陽市で一つのまとまりという感じだろうか。第 1 回目の会議のときに皆さんに自己紹介していただいたときに、「〇〇の～です」という紹介をしてもらった部分はあるが、私はこの地域の一員ですという気持ちはどの程度皆さんの中にあるのだろうか。

(委員自由発言)

私は地域に属しているとは思っているが、その地域の見方が自分がどこにいるかによって広がるのではないかなと思っている。自分は今米沢の学校に通っているのですが、高校で自分の紹介をするときは南陽市から通

っていると言う。しかし、中学生の頃の合同の運動会では、宮内の一員として対抗心が生まれたりする。どこに自分が身を置いているかによって意識は変わってくるのではないかと思う。

(石井コーディネーター)

東京にいと山形から来ましたと言うはずだし、ニューヨークにいれば日本から来ましたと言うだろうということが想像できるが、まさにその通りだと思う。

(委員自由発言)

私が中学生のころは市内の中学校が 7 校ほどあったので市連合運動会は結構白熱していた。赤湯、宮内、沖郷は南陽市の三大中学校であることからお互いをライバル視していた。私の時は赤湯と沖郷が特に仲が悪かった。市連合の競技自体は大きい学校は優勝しにくい、応援合戦は大きい学校同士がライバルとして争っていた。

(石井コーディネーター)

そういうエゴと言われるようなマイナスの意識は今の生活に残っているだろうか。

(同上委員)

住んでいる地域の情報しか知らないのになんとも言えない。私はもともと沖郷だが、赤湯に来てから赤湯温泉ふるさと祭りというものを実施していることを知った。

(石井コーディネーター)

同じ市に住んでいても他の地域のことはあまり知らない。

(同上委員)

市としてのいろんな情報というのは今と比べるとなかなか知ることができなかったと思う。

(委員自由発言)

私は南陽高校に通っていて、赤湯、沖郷、宮内といろんなところから生徒が通っているが、高校に入学してすぐの間は同じ地域出身者同士において共通の話題で話すことが多く、出身地と別の地域の話をしているときは話に入れないこともあった。しかし、慣れてくると自分とは違う地域の情報を聞くことができ、○○でこんなイベントがあるから一緒に行こう、といった話ができる。中学校の時は地域ごとの帰属意識が強かったが、高校生になって一つのまとまりになると地域間でライバル視するような意識は薄くなったと思う。

(石井コーディネーター)

マイナス面での意識は高校生になって時間がたてばだんだん消えていくと。切磋琢磨する地域の対抗意識はポジティブに捉えるとして、ネガティブなものは生活の中でそのほかにあるだろうか。

(委員自由発言)

生活の中ではあまり実感はない。南陽市はそもそも宮内、赤湯、沖郷が集まってできた市だということもあり、それぞれの地域の間にある意識は変えられないと思う。しかし、今後学校が統廃合をするという動きの中では、オール南陽というまとまりの中で物事を決めていかなければならないと思うので、このあたりの意識改革は必要だと思う。

(石井コーディネーター)

自分の地域から中学校がなくなるかどうかというよりは、市内の中学生全員にとってどこに中学校があるのが本当にいいのか、ベストな選択肢はないとしてもよりよい、バターな配置はどこかという議論をしていくべきだという意見。

(委員自由発言)

私も中学生の時は対抗意識があったが、高校生になってからは南陽市を1つのまとまりとして見るようになった。中学生の時の南陽市の学校同士の交流の場は、たいてい対決型のものが多いので、その中で生徒同士が話す機会や関わる機会を作ればちょっとずつ意識は変わるのではないかと思った。

(石井コーディネーター)

前日もそういう場がないというご指摘をいただいていた。対抗を宿命づけられているのはなぜだろうか。そんな風に少し思った。

(委員自由発言)

私たちよりも上の年代(70,80代)は石合戦をしていたという話を聞いたことがある。もともと3つの行政区域だったものが1つにまとまったという経緯があり、それぞれの境界線に川がある。その川の両岸から石を投げ合ったというもの。市町村合併で南陽市になるときも話が難航し、市の名前がなかなか決まらなかったということや、市役所の場所がちょうど真ん中のどこでもないところにできたという過去がある。そんな対抗意識があるので、私が学生の頃は他の地域に負けたなどということがあれば家に帰れないくらいだった。しかし、だんだん年が経つにつれて赤湯地区と中川地区、沖郷地区と梨郷地区、宮内地区と漆山、吉野各地区が混ざっているの、昔に比べて地域ごとの対抗意識はかなり薄くなってきていると思う。他校との交流という面では、ほとんどのケースが部活であったり、市連合であったり、対決の様相にならざるを得ないのかなと感じる。細かいことを言うと私が住んでいる地域と赤湯の街中は仲が悪かったりもする。合併の過程において、他の町ばかり行政サービスや公共施設が充実することに対しての僻みなども影響していると思う。

(石井コーディネーター)

他の地域に負けて帰ってくるなというようなことは今はもうない？

(同上委員)

対決ものなのでどうしても他の地域に負けて悔しいという感情はある。しかし地域が違うことによって子どもたちの仲が悪くなるということはありません。

(石井コーディネーター)

提案の 5 については、前回他市では中高生が過ごせる場所があるという情報をいただき、南陽市の中においては自習する場が少ないという意見をいただいたのでそれらを中心に整理している。先ほど意見をいただいた第三の居場所のことについても提案 5 に加筆したいと思う。学校に行っている子にとっても必要であり、学校に行かないという選択をした子にとっても町のなかに何らかの居場所は必要なのではないかと提案になっている。

(委員自由発言)

子どもたちが安心して過ごせる場所というものができたとして、その場所まで行くための移動手段のことが抜けているのかなと思っている。スクールバスも有効に活用しながら移動手段についての選択肢があるといいのではないかと思う。

(石井コーディネーター)

これまでの会議の中で、保護者が送迎できる子とそうでない子で部活なども含めて経験の差が出るのではないかという意見をいただいた。このことは提案 3 に入れてもいいかもしれない。提案 3 は生徒数を増やすことで多様な経験を保障しようというまとめ方になっているが、中学生一人ひとりがみんな外的要因に左右されずにできる限りいろんな経験ができるように、また第三の居場所が使えるようにということを考えると提案 3 に加筆してもいいかもしれない。

(委員自由発言)

「学校教育に可能な限り協力する」というところにおいて、中学生と全く関わりのない市民も多いと思うので、市民ならだれでも中学校の授業を見に行ける日を作ってもいいのではないかと思った。その場で今の中学生がどんな学習をしているのかを実際に見たうえで、自分にできるサポートを考える機会になればいいと思う。

(石井コーディネーター)

中学生のことを何も知らない状態では、何をして協力すればいいかわからない。まずは知ってみることは重要だと思う。

(学校教育課 佐野課長)

社会教育の分野で地域学校協働本部事業というものがある。そのなかで、推進員の方が各校に配置されていて、その方を通して学校にご協力をいただいている皆さんが増えつつある。授業中の見守りやミシンの授業など様々な協力をいただいている。開放デーのような形で見に来ていただいたことを契機にというわけではないが、花壇の草取りのようなことから見守りサポートだったり、授業の支援などの活動をしていただいている。

4 全体協議 (石井コーディネーター)後半

(石井コーディネーター)

ただ、本当にこのトーンでいいのかというのが我々も心配なところがあり、意見は皆さんバラバラだと思

う。すぐにでも学校の設備を整えて今の小学生が中学校に上がる時にはよりよい状況に整えてあげたいと思っている人から、もうしばらく3校維持してもいいのではないかという人もいてそれぞれではないだろうか。提案書の書きぶりをどの程度の強さにするのかということを知りたい。しかし、一人ずつ聞くのは大変なので次のうちから自分の意見に沿うものに挙手していただきたいと思う。

選択肢:1.すぐにでも統合を進める 2.統合に賛成だが、時間をかけて行う 3.どちらともいえない、わからない 4.3校体制が難しくなるまで維持 5.現状のまま

1はすぐにでも統合を進めてほしいという考え。統合と言っても場所を決めたり手続きをとったり、お金を用意したり、新設したり修繕したりと時間はかかるため来年の4月からというわけにはいかないが、できる限り早くした方がいいだろうというもの。2は統合自体は賛成だが、ちょっと時間をかけて慎重に進めるべきではないかというもの。3はどちらともいえない、もしくはわからない。4はクラス替えができない状況や建物がぼろぼろになるまでなどぎりぎりまで今の体制を維持してほしいというもの。5は統合絶対反対。今のままがいいというもの。なお、手を挙げないという選択もOKとする。皆さんの意見によって、提案書の書き方を少し慎重にしたり、より積極的に書いたりして調整したいと思う。

-各項目を選んだ人数は以下の通り-

1:0人 2:9人 3:3人 4:7人 5:0人

多数決ではないので、一番人数が多い2に決定しますというわけではなく、皆さんの重心がどこにあるのかということ把握したかっただけである。この結果も考慮して提案書の書きぶりを考えさせてほしい。それではまた初めに戻り、提案の1から5までの部分については目を通したので、全体を見渡して思うことや、足りないことがあればおっしゃっていただきたい。

(委員自由発言)

提案2の行政の①について。カウンセラーの人数を増やすということだが、これは配置する人員を増やすのか育成に力を入れるということなのかがわかりにくい。これまでの話を聞いていると、学校にスクールカウンセラーはいることはいるが、常勤ではないということだったので人材を確保するのが大変だという側面もあるのかなと想像する。しかし、できるだけ常勤でそうした方が学校にいて活用できる環境を整えるべきだと考える。

(石井コーディネーター)

人材を育成する、質を向上させるという意図なのか単純に人数を増やすという意図なのか今のままではわかりにくいので表現を改めたいと思う。

(委員自由発言)

提案4の中に校舎を新しくするという意見があるが、財政面を考えると厳しいと思う。視点を変えて生徒自身が校舎の清掃をするというのはどうかと考えた。年に1回全校生徒で校舎を掃除しようという取り組みがあり、自分たちで綺麗にすることはとてもいいことだと思う。その場に地域の掃除のプロのような方に来ていただいて生徒と一緒に作業するのはどうか。トイレのにおいのことも会議で話題になったが、設備を新しくするだけではなくて掃除もすれば少しは改善するのではないだろうか。

(石井コーディネーター)

今回は中学校なので、中学生はかなり掃除の戦力になるかと思うが、私の知り合いが全校生徒で 100 人に満たない小学校の PTA 会長をしている。その学校では、保護者が年に 1 回学校の大掃除をしていると聞いた。絶対小学生が届かないようなところを手伝ったりなどしてイベント的に行っているそう。今の話は実現の可能性もあるかもしれないし、もしかしたら、掃除で手が届かないところがあるので業者さんに足場を借りようということになるかもしれない。そんなところにも可能性を感じる。

(委員自由発言)

提案4の行政の9番に中学校のバリアフリー化を進めると記載があるが、何のためにバリアフリー化を進めるのかを明らかにするべきではないか。生徒がけがをした時に一時的に使用するためのものなのか、あるいはハンディキャップを持つ人のことを考えてのことなのか。インクルーシブ教育のことも念頭に置きながら、何かしらのハンデを持つ人が入学できる中学校がある状況を目指すのかどうかというところを明らかにしたい。

(石井コーディネーター)

障がいがあることを理由に学校選択の幅を狭めなくていいようにしたいという話が会議の中でもあった。その意図を読み取ることができるように書き方を工夫したいと思う。

(委員自由発言)

提案4のその他の主体の③に記載がある、寄付金に協力するというのは、学校の運営にクラウドファンディングなどを活用していこうということなのか、学校として募金活動などに積極的に協力していこうということなのか意味合いはどちらだろうか。

(石井コーディネーター)

この意見はこのまま書かれていたと思うので、学校側が主体として行っていくという意味ではなかったと記憶している。この章はハードの話で、お金がないということと話していたので、学校の設備などに関して寄付という形で協力できないかという意味で書かれていたのだと思う。このことについても表現を修正したい。

(委員自由意見)

提案 4 に関連して、午後の授業に集中できない人が多いところから、午後からも集中するために給食の時間後に 30 分ほど睡眠の時間を設けるのはいかがか。昼寝をして眠気がなくなれば学力向上につながるかもしれない。

(石井コーディネーター)

導入している学校の話は聞いたことがある気がする。

提案 4 の地域の①「ボランティアに協力する」のように何の話かがよくわからないものが今の段階の提案書にはいくつかある。

(学校教育課 佐野課長)

学校に関連するボランティアとしては雑草取りなどの環境整備や読み語り、登下校の見守りなどのサポートをしていただいている。

(委員自由意見)

提案2において、ハンディキャップについてそれぞれが理解するだけではなく、理解した上でみんなでサポートするという文言を追加してもいいのではないかと。サポートをするにしても、知識や経験が必要だと思うのでそうしたことを学ぶ機会もあわせて作っていくことが大切かと思った。

(石井コーディネーター)

提案3の行政の⑤で「生徒がしたいことを諦めさせない環境を整える」とあるが、抽象的なので具体例を記載した方が良く思う。どんな内容がいいか私自身ははっきりとわかっているわけではないが、例えば「移動手段がないから入ることができない部活があること」や、「通っている学校にないスポーツがしたいが、部活は強制参加であることから本来やりたいことができないこと」など。その方が行政等で対策を練るときにより方向性が見えやすいかと思う。

(石井コーディネーター)

本来は生徒の自由に委ねられるところだが、通っている学校の状況に起因して諦めないといけないう選択肢があるというところを膨らませていきたいと思う。

(委員自由発言)

提案4の行政の⑦「中学校を統合する際は南陽市の真ん中に設置を検討する」というのはここまで限定する必要はないと思う。統合するときの生徒数などの環境変化が考えられるので、真ん中というのが最優先される項目ではないかと思う。

(石井コーディネーター)

こちらは改善提案シートに書いていただいたのでそのまま書いてしまったが、この意見だけ具体的すぎるかもしれない。統合するとなるとどこがいいのだろうか。例えば、みんなが何分以内に通うことができるかといった形で線を引くのか、しかしその場所が必ずしも市の真ん中とは限らないところ。

(委員自由発言)

交通の便のことや、道路状況(歩道がないなど)のことも考えた方がいいと思う。自転車通学を許可するかどうかの話にもつながると思う。

(石井コーディネーター)

ここは表現を工夫したいと思う。場所の話はこのことくらいしか出ていなかったように思われる。

(委員自由発言)

今の意見と同じ部分で、真ん中に設置というのが具体的すぎるということで、例えば、通いやすさに偏りが出ないようにするという表現であれば少し抽象的になっていいかもしれない。

(委員自由発言)

提案3の地域の②をもう少し具体的にした方がいいと思った。中体連や合唱なども地域の人に見てもらう場所を作ってみみんなで共有できればいいと思った。

(石井コーディネーター)

例えば、合唱を地域の人に見てもらうなど、各地域で力を入れているスポーツや文化活動を共有する。といった書き方になるだろうか。

それでは、このあたりで議論としては終了としたいと思う。時間が少しあるので、4回目が終わるにあたって、自分ごと化会議に参加してどうだったかという感想をいただきたい。

(全体協議終了)

5 市長挨拶

以上